740

特225
347

政界風景展望

政界人物評傳

屋謹一著

0004794000

0004794-000

特２２５－３４７

政界風景展望

角屋謹一・著

文王社

昭和８

ABC

この著作物は、著作権者不明のため、著作権
第６７条の規定に基づき、平成１２年３月２
けで文化庁長官の裁定を受け使用するもので

特225
347

自序

涙香、黒岩周六氏がまだ萬朝報の社長として健在であつたその全盛時、山縣五十雄、斯波貞吉。阿部充家先生等の盡力で入社して以來、帝國議會を始め各政黨本部に出入すること十年あまり　その歳月は極めて迅速に流れて行つた。

○

その間、寺内、原、高橋、加藤(友)、山本、清浦、加藤、若槻、田中、濱口若槻と、擧げ來れば十一代の内閣が更り、そして僕の麗して居た萬朝報も、黒岩先生沒後は入りかわり立ち代り五、六の經營者が据り込んで、その更るごとに當年の同志は四散して行つた。昔思へば全く夢のやうな話である。

○

筆を染めて人物評をものするのも最早久しい事であるが、しかも政界各方面に於ては、多士濟々誠に偉觀を呈して居る。特に左の人々を拉し來りて評論を試みるのも、これ等の人々はその政治的手腕識見に於て政界の雄、然らざれば政治家として將來大を成し得ると共に、まさしく一黨を代表する人々である事を確信するが爲めである。

○

夕陽は、西なる山に落ちてをぼろにくるゝ頃。劇戟と感興の湧くにまかせて書きなぐつたのであるが標的は決して外れて居ないと思ふ。

世田ヶ谷の莊にて　角屋謹一

目次

國士肌の男……民政黨顧問 戸井嘉作…四
熱情家……前北海道長官 池田秀雄…六
彼と產業政策……前商工次官 田島勝太郎…七
彼と第六十四議會……一松定吉…八
民政黨の快男子……前福岡縣知事 川淵治馬…九
信望と實力……常任幹事 手代木隆吉…一〇
興味湧く彼の將來…黨務部長 田中武雄…一一
清貧の旗頭……司法政務次官 八並武治…一三
新進氣鋭……武知勇記…一四
スポーツの愛好家……海野數馬…一五
圓滿の常識……民政黨顧問 添田敬一郎…一六
寛厚の人……會計監督 西脇晋…一七
誰にも好かれる男…常任幹事 多田滿長…一八
關門の重鎭……藤井啓一…一九
筆と舌と力と……中野正剛…二〇
昭和政界の第一人者 民政黨總裁 若槻禮次郎…二二
民政黨幹事長……前拓務大臣 松田源治…二四
彼と六十四議會……政務調査副會長 作田高太郎…二七
江木さんの寵兒……外務參與官 澤本與一…二八
民政陣營の快男子…常任幹事 高橋守平…二九
彼の動向と政局と……富田幸次郎…三〇
第三黨の威容……國民同盟首領 安達謙藏…三二

齋藤內閣の……拓務大臣 永井柳太郎…三四
首相級の男……朝鮮總督 宇垣一成…三六
彼と財政經濟……中村三之亟…四〇
知事出身の變り種…政務調査會長 清水德太郎…四一
彼と農政問題……農林參與官 松村謙三…四二
機智と才腕……岡田喜久治…四三
正しき眞面目さ……小山邦太郎…四四
頭腦も好く辯舌も達者……豐田豐吉…四五
黨本部總務……民政黨總務 川崎卓吉…四六
最年少者……櫻井兵五郎…四八
小氣味好き男……常任幹事 中村不二男…四九
善良な紳士……眞鍋勝…五一
彼と農村問題……鷲澤與四二…五二
議會に於ける彼……黨務副部長 矢野庄太郎…五三
原さんの秘藏ッ兒……中井川浩…五四
當年の名檢事……前拓務參與官 武富濟…五五
周密なる思慮……顧問 山本厚三…五六
自由清新……中村繼男…五八
辯護士としても……內藤正剛…五九
手腕力量……拓務政務次官 堤康次郎…六〇
上州の重鎭……飯塚春太郎…六二
勇氣と手腕……松村義一…六三

國士肌の男

民政黨の宿將

戸井嘉作氏

民政黨の宿將でしかも横濱に於ける總帥である。常に志を天下國家に持つ憂國の士でもある。政黨人として彼が政治を以て彼の生命の唯一最大の對象として居るに不思議はないがしかし彼は政略家ではない、極めて坦々たる憲政の常道を歩まんとして淸虛高簡なる風懷を以て政治をやるところに彼が生きて居る。

さすがに、改進黨以來の政士でそして沼南島田三郎に師事すること三十餘年間。俊迄二大政黨主義を把持して今日に到る老國士でもある。無論、年は老つて居るが元氣は壯者を凌ぐ概がある往年、官僚軍閥と戰ひ白刃の下を潛つたゞけ膽力の据わつて居る點は、けだし近代政治家とは一寸その趣を異にして居る。のみならず、經世儕民その志を天下國家に持つ事を忘れぬ。

即ち彼の眞骨頂として認むべきは、周密の劃策を凝らして一度その決着點に到達すればこれを斷々乎として實行に移す勇氣と手腕を保持することである、彼の圓滿なる常識に加ふるに周密なる思慮とを賦與せられて居ることは天の彼に惠む偉大なるものがあると言はなくてはならないのだ。そして誰に對しても氣輕で、そして親しまれる性格を準備して居る好々爺である。

さすが沼南の訓陶を受けて居るだけに權勢に阿附せず正を踏むで怖るところなしとの信念に燃え居るのみならず、圓滿の一面烈々たる氣魄を藏し所信を斷行することに於て決して人後に落ちないのである。

普選の殊勳者、政黨內に於ける親和の楔としての彼は、地方に於ける地盤開拓の功勞者であり、又先達でもあるのだ。

代議士としては當選六回を算するに過ぎないが、我が國、憲政のために盡した功績は沒すべからざるものがあるのだ。前遞相小泉又次郎がまだ中央に志を得ずして神奈川縣會の議席を獲て居る時分、彼は、小泉を始めて沼南に紹介して同志となし彼れまた中央政界に睨みを利かして居たのみならず、神奈川鎭臺として采配を振つて居たものである。

今日に到るも彼の壯志は少しも衰えずし民政黨に於ては總務を幾度もやり今ぢや顧問として若い代議士連の面倒を見たり又は總裁その他の幹部に苦言を呈したり或は賞めたりする立場にあるが、けだし彼を民政黨が有する事はなか〳〵の强みでもある。

前北海道長官

書生肌の熱情家

池田秀雄氏

縣知事、朝鮮總督府殖産局長、北海道廳長官を歷任し、江木翼のすゝめもだし難く、北海道長官を弊履の如く捨て、京城日報社長となりそれより方向轉換即ち、中央政界の進出なつた彼である現在では、佐賀縣を背負つて起つ立場に置かれて居るので、從來、地方遊説に黨勢擴張に、席暖なるを知らざる勵精ぶりである。地方官として半世を送つたものゝ常として見るところは、鼻もちならぬ官臭であるが、わが池田に限つてかゝる陰翳はとこを探がしてもないやうになつたほど餘程民衆的である。國士肌の男で、その志は常に國家にもつて居るは言ふまでもなく、又簡單に話のわかる通人でもある。江木翼は矢張り眼が高かつたとはよく院内外で噂せらるゝところでもある。辯舌に熱があつて、口を開けば民衆の頭に何ものかを印象せしめずには置かないのだ。そして政黨生活幾ばくも經たないに拘らず政黨の要諦を心得、内外頗る好評を得て居る彼でもある、正を踏むで恐るところなしとの信念に燃え、敢て最高幹部に一瞥を送らず、自らは永遠の青年を以て任じそしてなか〳〵の硬骨漢でもある。

東京帝大法科大學英語科卒業後、文官高等試驗に合格先づ東京朝日新聞記者を振り出しとして後拓殖局書記官、長野、廣島、宮城各縣理事官、岐阜縣警察部長、外務事務官兼内務書記官、宮城、廣島各縣内務部長、秋田

前商工次官

彼と産業政策

田島勝太郎氏

と言ふ事である。第六十四議會では、彼の得意の産業界方面では働いたものである。殊に製鐵合同には渾身の努力を傾注して成立せしめたが、しかも政府をして今日迄に於ける從業員の生活を保證せしめたのみならず好條件を以て從業員側の利益を尊重したなど、彼の努力の賜と言ふべきであらう。頭腦も好く辯舌も達者、役人をして居たものゝ持ち前とされて居る官臭など何處をさがしても求める事の出來ぬほど彼は民衆的でもある。

帝大法科卒業文官高等試驗合格後、農商務屬、水産講習所教授兼水産局書記官、製鐵所事務官同參事、農商務書記官兼製鐵所理事兼外務書記官、製鐵所理事、鑛山監督局長、商工次官兼臨時産業合理局事務官に歷任し、その間製鐵所庶務課長、同庶務部長、水産局水産課長東京、福岡、各鑛山監督局長、又、八幡市會議員、同議長、東京市助役をもやつた事がある。

官界にあつては商工次官まで滯ぎつけた彼である。政界にあつても、近來メキ〳〵とその手腕と力量は認められ彼の平素抱懷して居るところのものが民政黨の政策となり又は齋藤内閣の政策として現はれるものも尠くない

努力の賜

彼と六十四議會

一松定吉氏

第六十四議會に於ては總務待遇の院内筆頭幹事をやつた彼でもあつた、根が檢事出身だけあつて黨内切つての辯論の雄者であるが、彼の辯論を一層効果的とするものは誰れにも眞似の出來ない彼の聲量であらう、その肺腑を貫くの辯は一言一句舌端火を吐くに似て、何ものかを強く〳〵印刻せずには置かないのだ。

彼が去る六十四議會で提案した法律案で樂議院を通過した法律案は一、刑事裁判宣告猶豫法案一、罰金刑執行猶豫法案一、刑事訴訟法改正法律案（判事忌避に關する部削除）同（拘留期間更新に關するもの）一、行政執行法改正法律案等で特に身元保證に關する法律案は貴衆兩院を通過して法律として公布濟みである。此の法律案通過に依つて今後身元保證をした者が保證期間を定めざる場合も永久責任を負ふ事となつて居たのを改めて三年又は五年の時効に依つて責任を解消する事となり、今一は責任發生の場合賠償額に關し裁判所が諸般の狀況を斟酌して賠償金額の制限をする事となつた事である。又、身元保證人は被保證人の保證後に於て狀態の變化を理由として保證契約を解除する事を得る樣になつた事等で、以上は畢竟彼の努力の賜で、今後どれほどこの法律のため便宜になるか分らないものとされて居るのである。彼は大審院檢事を最後として役人生活を終へ目下辯護士をやつて居るが、政治家としても辯護士としても優秀なる存在を占めても居るのである。

民政黨の快男子

輝かしい將來を約束された男

川淵洽馬氏

知事の出身者にしては官僚臭味なく以て朗かに又氣輕く政治家肌で誰にもすかれるなか〳〵好い素質を具備した快男子である。未だ政黨生活幾ばくならずして政黨の要諦を心得て居るのみならずヤボの代議士よりは簡單に物の解る代議士でもある。今頃常任幹事とは彼自ら頗るヲカシ味を感ずるかも知れないが、しかし政黨は別世界、今暫らくがまんするさ。さりながら政權が民政黨に落下する場合は警視總監或は警保局長は動かぬところとは黨内で專ら噂されて居るところでもある。若槻總裁始め最高幹部に極めて信賴されて居る。それがならぬか鄕里高知の選擧區では彼の爲め記念碑を建てられて居るとの事だが、彼の信望も中央政界に於けると同樣頗る深いものがあるであらう。從つて彼れは輝かしい將來を約束されて居る一人でもあらう。東大卒業後、福島、廣島、福岡の各縣事を歷任して頗る好評を得、今日の政界入りとなつた譯だが、今少し中央政界への進出を見たならば今頃は黨の總務が幹事長位で納まつて居たかも知れないのだ。度胸と言ひ識見と言ひ手腕と言ひ、知事の出身者にザラにある人間でない事は今更申す迄もない事だ。彼はどちらかと言へば重厚の素質だが、また畏敬されるやうな果敢の性格も持ち合せても居る。前總裁空谷濱口さんには頗る信賴されて居た。つとめて倦まずんば彼は必ずや大臣まで漕ぎつける男である事は一般から信ぜられて居るところでもある。

前途に興味を持たれる

信望と實力

手代木隆吉氏

性は寛厚にして如何なる場合と雖も紳士の美徳を失はず然諾を重んずる泰山の義の持ち主でもある、眞面目で親切で、無論、政治家としても辯護士としても優秀の存在であらう。當選三回、北海道選出の政士で、理論家であると共に、その反面には燃ゆるが如き熱情を漲らせても居る。

民政黨に於ける各部の部長か、若しくは院内總務級の男で、何をやらせてもソツがなく各方面に頗る好評を得ても居る。さりながら彼にして若干の政治的慾望とそれを達成せんとするネバリと押しとが、彼の心奥に湧くなれば、彼が現實の政界に、或は黨内に於て、今一歩の活躍の舞臺を獲る事は、まことに彼に於て易々たることであらう事も信ぜられても居るのだ。謂はんや彼が如き清新の理想をもち大衆の政治要求に巧に乘じ得る透明なる頭腦をもつ彼に於ておやだ。何れにしても彼が如き政治家の前途に興味を持つもの豈、吾人のみならんやと思ふが如何？

民政黨に於ける常任幹事である。中堅の尖端にあるもので、從つてその政治前途を期待されても居る。やがて大幹部の列に自ら進み入ることも確實である。

鬪志と力量

田中武雄氏

興味湧く彼の將來

圓轉滑達の反面機智と鬪志をつゝむ彼の、現實に於ける政界地位は、誰が何と言ふても、動かす事の出來ぬ强き存在を確實に保有して居るのだ。現在では民政黨に於ける黨務部長であるがそれまで情報部長や院内總務、外務參與官などを譯なく勤めあげた男でもある。まだ彼が當選一回の間のない時、機を得れば雲蒸龍變して議政壇上の攻防第一線に起つであらう事が、黨の内外に於て認められても居たのであるがソレは決して誤たなかつたのであるばかりでなく、今や政界何の方面に廻しても立派の流行兒で、いよ／＼得意の絶頂を走らんとしても居る。かの安達謙藏問題に次では富田幸次郎、三木武吉一派の復黨問題に際しても如何に彼がその裏面で活躍したが、餘り世間で知るものゝないだけ、斯う云ふ事を鼻に掛けて居ないだけに、彼は別に問題としても居ないのだ。民政陣營に於ける中堅組では得難き存在であるは言ふまでもないが、彼が沈默の間、何事かスラ／＼と仕事をやつて行くその手腕、力量に至つては到底他人の企及し與はぬとこでもあらうか。彼の嚴父故肥塚龍は、伊藤内閣の末期、東京府知事をやつて居た事のある當時の政客で、大隈侯とは數十餘年の同志で、しかも島田沼南と共に藩閥内閣と戰つた善良の紳士、正義の公人でもあつたのだ。何れにしても彼の政治前途はいよ／＼興味ある新局面が準備されて居るやうな氣がするのである。

清貧の旗頭

司法政務次官

八並武治氏

かつては、加藤憲政會内閣の時、司法參與官となり、又幹事長をつとめあげた彼が、普選第一回戰の時、惜しやその政戰結果が彼に幸ひしなかつたばかりに濱口内閣成立に際し、當然彼に辷り込むであらうとされた政務次官の椅子を失つた彼の政治的生活は、彼の親分箕浦勝人を失つた當時の事でもあつたので、彼の有する政治環境には切に同情するものもあつた。さりながら普選第二回戰に、檜舞臺に返り咲いた彼は、彼が把握した彼の政治生活の初期のそれのやうに　トン〳〵拍子に幸運の道が開け、黨總務から政務次官へ、明るい政治生活を現出して來たのでもある。昭和六年十二月若槻内閣の總辭職と共に挂冠した彼は齋藤擧國一致内閣の出現と共に、再び司法省の政務次官となり現在に到ることは、政務官制度布かれ三度同一省に政務官となつたことは同君のみである、彼の大成も期して待つべきである。

東大法科卒業の秀才で、それに拘らず彼はいよ〳〵勉強した、その上どんな人との交際でも極めて虚心坦懷にやつてのけて如何なる問題でもスラ〳〵と解決して行くところに彼の頭のよさを示して居る。大正の初め大隈内閣當時昔箕浦逝相に認められてその秘書官を勤めた事もある。

彼は若槻第二次内閣には入つて司法の政務次官となり擧國一致の齋藤内閣には懇望されて再度の司法次官の椅子に就くことゝなつたことは畢竟彼の人望の然らしむるところで清廉潔白、清節一として疑點の打ちどころのない政士であるからにもよるのだ。

言ふまでもなく彼は正直で眞面目で定石を行く男だ政治家の通弊として世上に醜を傳へるやうなことは藥にしたくもない、その政治家としての信念は特筆に價するのだ。從つて彼は今に到るも清貧の生活を生活して居るのは氣の毒のやうでもある。

細心にして太ツ腹、圓滿にして敏捷果敢、謂むや政治家としての培を忘れぬ彼は、今一層の榮達の階段に近づきつゝあるであらうことも想像されるのである。

新進氣鋭

將來を期待される男

武知勇記氏

えもある。そしてなか〳〵の雄辯家で口を開けば民衆の頭に、何ものか印刻せずには置かぬだけの強い力をも具備して居る。熱もあれば闘志もあり、兎に角、民政黨の首腦部に將來を期待されて居る所以かも知れぬ。彼は明治大學法科卒業後、愛媛縣會議員、松山市會議員に擧げられ、一方中央政界の躍進となり、今日當選二回の塲數しか經て居ないに拘らず、民政黨の陣容を護る闘士として有力なる存在を築いて居るのだ。農、漁村問題を始め財政經濟問題が得意で第六十三議會では隨分農漁村救濟に對して努力を傾注したものである。斯う言ふのが將來好くなる政士で、やがて政界の一角に、一道の光彩を放つであらう事が想はれて居るだけ自ら榮達の階梯を築くものたる事を何人にも容易に信ぜしめても居るのだ。

闘志満々

明敏なる頭腦

海野數馬氏

學の野球選手で、六大學の選手として今日、名選手の存在を有して居る者が尠くない。從つて青年の共鳴點を多量に含んで居るだけ、若々しく、しかして、無邪氣めところもある政治家である。才物である共に思慮も周密である。闘志もあれば機略もある、そして民政黨陣營を護る好個の戰士として今ぢや押しも押されぬ強き存在を有しても居る。彼の才氣は刻々として移動する時の流れと同じテンポで進み行く大衆の政治要求に巧に乘じ得る冴えた頭腦を持つて居る。先年萬國議院商事會議に參列し、歐洲各國を巡遊した事は彼の前途を明るくした事はたしかでもある。いづれにしても彼の政治前途は一種の謎を多量に含んでは居るかしかし今後一段と光彩を放つであらう所の新進氣鋭の政士として彼の政治將來に興味を持つものが尠くないのである。

民政黨の代議士では中堅の尖端に位するもので、次第に強い存在を示すであらうことも想像されぬでもない。

スポーツの愛好家で、彼が面倒を見たところの靜岡中

圓満の常識

黨の顧問となつた

添田敬一郎氏

政黨の生命とも言ふべき、政務調査會長を無難で勤めあげ、既に試驗濟みの彼である。今回の役員改選に際し黨顧問に推薦された事も、一度總務を勤めた彼としての順序であつたのであらう。中堅幹部中の幹事長の候補として櫻井兵五郎と共に有力でもあつたが所謂る大幹事長主義に黨の方針を決定し既に松田源治がその椅子に納まつた今日、それがタトエ小、中、大幹事長主義の可否は別としても暫らく顧問として働いて見るのも惡くはあるまい。床次形の悠つたりした男である、決してコセ付かず又人と爭つて功名をも競はず他日の大成を期して居るのである。その昔、埼玉、山梨、山形と各縣の知事を久しくやつて居たこともある知事中の故參者であつた。中央政界に乘り出しても官僚出には似合はない世故と人情に碎けた所謂る民衆的の男で、政黨生活幾ばくならずして黨人の要諦をよく呑み込むでも居る、協調會の常任理事をして居た時には內外頗る好評を博して居たものである。堂々の正論、圓滿の常識、その氣魄と抱擁力との點に於て一寸民政黨幹部中には珍しい型で、若槻總裁始め小橋顧問等の信賴も深いのである。

黨會計監督

寛厚にして義は固し

西脇晋氏

民政黨の牙城を護る一方の闘士として今や、なくてはならぬ存在を有して居る。今や中堅の尖端に誓らく萬丈の光彩を放ちやがて大幹部の列に自ら進み入るであらう事は確實である。彼は東京帝國大學法科大學卒業後、文官高等試驗に合格、大藏省に入りそれよりしばらく官界生活をやつて居たが、遂に中央政界の躍進となり、今日の政界地位を造りあげたものである。即ち彼は民衆に歡迎さるべき素質を有して居るのだ、圓滿にして圭角のとれた人格、なか〳〵人の面倒も好く見ても居る。それであつて烈〳〵たる氣魄を藏し所信を斷行することに人後に落ちないのである、彼は官を辭して以來辯護士となり、現にその業務に從事し、一方法政大學講師、帝國製鐵、藏內商事、滿蒙土地建物、横濱倉庫各株式會社監査役及び株式會社大阪造船取締役となつたこともある。中央政界に躍進以來、今日まで當選四回、その間隨分あつた財產は殆むど政治に蘯盡したものである。

齋藤內閣成立の際參與官候補者として有力であつたが遂に實現しなかつたのは一般から同情されたものである。溫厚の士で、如何なる場合も紳士の美德を失わず、加ふるに財政經濟に通じ若槻總裁始めその他幹部の信賴をあつめて目下黨の會計監督の重位にありて黨內外に頗る評判の好い人である。

將來ある男

誰にでも好かれる男

多田滿長氏

普選第二回戰には、天晴れ全國第一位の得票を獲て大に天下に氣を吐いた彼でもあつた。さりながら今回の選擧には野黨としてその政治環境を異にして居ただけに惡戰苦鬪は免れなかつたのだ。しかし彼は極力戰ひ拔き千葉の第一區に於て第二位を以て當選の榮を贏ち得たものでもあつた。彼は早大卒業後、才操と度胸とを以て新聞記者からたゝきあげて來て居る男だけに人物が確かりして、先輩に對しては敏達であり、人と交つて寛厚でもある。そして民政黨の代議士中珍しく風格のある男である。どちらかと言へば重厚の素質だが、それでも畏敬されるやうな果敢な性格をも持ち合わしても居る。從つて抱擁力があつて何事に對してもコセ〳〵しない言はゞ線の太いところのある男でもある。雄辯家で口を開けば堂々天下國家を論じ民衆の頭に何ものか植えつけぬと言ふことはない。今や常任幹事として民政黨の中堅に屬し、なくてはならぬ强き存在を占めても居る。

實力と信望

關門の重鎭

藤井啓一氏

彼の山口縣に於ける選擧區は政友會全盛の土地柄であると共に又日本憲政史上有名な土地柄である事は言ふまでもない事だ。さりながら彼が民衆の强き支持をうけて今尙ほ强固なる存在を有して居ることは彼の實力及びその信望の然らしむるであらう事は今更呶々を要せぬ事でもある。彼は人間としての正しき眞面目さを持つて居るのだ。寛厚の人でいかなる場合と雖も紳士の美德を失はず、政黨界にあつては親和の楔として、同僚間に頗る評判好く、又若槻總裁始めその他の大幹部に信賴されもして居るのだ。慶應三年の產とあるが壯志なか〳〵に衰えずして常に志を天下國家に持ち好むで靑年と談ずることを快とし居る珍しい風格のある男である。彼は東京法院卒業後、辯護士となり、その後山口縣辯護士會會長、山口縣會議員、下關商業會議所特別議員に選ばれ、そして下關臨時港灣改良及び市區改正調査委員、同臨時治水調査委員、同臨時事業調査委員、小作調停委員となり都市計畫山口地方委員被仰付た事もある。

筆と舌と力

新黨の一大威力

二〇

中野正剛氏

政界人多しと雖も、今日の中野は、政治界ドノ方面に廻しても立派の流行ッ兒で、そして腕利きでもある。若し閣内閣の末期に於て、協力内閣問題から安達謙藏と共に脫黨した當時、彼の周圍には其認識に於て種々なる噂が渦卷いたが、然し齋藤協力内閣成るに及むで、その先見の明たりし事は安達謙藏と伴に、いよ〳〵得意の鼻を高からしめた譯でもある。

脫黨と共に彼は考へたのだ。『今日の日本のためには如何なる政治が必要であるか・・・今の日本に於て適切でありしかも効果的である、政治を行はなくてはならぬ。そして吾々は外、國際に向つて萬難を排して進出しなければならぬ。内、この國民生活を打開しなければならぬ、即ち内外更始一新しなければならぬ、政黨員として黨の利害をのみに囚はれず、眼を開いて日本を見、更に世界を見る者は此の現狀に鑑みて大に躍動しなくてはならぬ。・・・・・・』即ち彼の躍動は玆に急テンポに新黨樹立の躍動となりその新政策に包含されることゝなつたものでもある。

言ふまでもなく、彼は雄辯家である。民政黨に居た時は永井中野と併せて二大雄辯家と稱されて居たほど彼の雄辯は熱があつて力がある。しかも彼が一管の才筆は、天を描けば龍を、野を描けば虎を躍り出さしめずしては措かぬ。經世、濟見情夫をして起たしめるに十分でもある。

永井柳太郎の美辭麗句は恰も音樂を奏するが如く聽者をして恍惚たらしめ滿堂を魅了せしめるが中野正剛のそれは一言一句烈々として舌端火を吐くに似たりその肺腑を貫くの辯は必ずや何ものかを民衆の頭に印刻せずには置かない、しかも鬪志に燃え、機略、見識氣魄、何一つ缺くるところなく新黨にあつても彼の眞價と名聲は、墜ちる事なき爆擊機でもあれば、沈み終る事なき潛水艦でもあらう、げに新黨の一大威力でもある。

そして何處までも書生肌で浪人肌で、尊大ぶらずいかにも簡單にモノの解る男である。明治から昭和に到るまで日本は著しく變轉した時代色を作つて居る。國民の生活思想に於て、或は感情とに於てしかしながら彼は刻々として移動して行く時の流れをよく呑み込むで大衆の政治要求に巧に乘じ得る頭腦をも用意して居る。そして彼は畏敬されるやうな果敢な性格を持ち合して居るかと思へばその一面周密な頭腦を持つて居る。彼の性格は多角的でもあるやうだ。何れにしても新黨に彼が一枚加はつて居ることは新黨の一大威力でもあらう。

民政黨總裁—昭和政界の第一人者

若槻禮次郎氏

槻内閣を組織しそしてまた濱口内閣の時、維新から明治となつて、その明治政府が出來あがつて以來、總理大臣を二度つめたものは、殆ど指を以て算ふるしかない、しかるに彼は、加藤(高明)内閣に次いで若る責務を果し、その功績に酬ゐられて男爵を賜はり、明けては濱口總理歿後に於ては顧問の無風情態より無理やりに引つ張り出されて大民政黨の總裁として再び若槻内閣を組織するなど、彼はまさしく當代に於ける幸運兒であると共に、又、昭和政界に於ける第一人者でもあらう。

たゞ、しかしながら彼は濱口内閣に於ける金解禁の後をうけて、内はいよ〳〵緊縮政策を實行して、行、財、税の整理に對しては、渾身の力をそゝぎ、その歴代内閣の到底爲し得ざりし官吏の減俸及び恩給法改正等を斷行して天下に氣を吐き、外にあつては滿洲に於ける重大懸案の解決に當るべく彼は敢然として國家の權益と民人福利の增大のために全力を擧げてこの内外重大なる時局に最善の努力を傾けて居たが、はからざりき、變態的現象である政民協力内閣の問題より閣内不統一の責を負ひ總辭職の止むなきに立ち到つほど左様に若槻内閣の末路は悲壯でもあつた。

さりながら、奇怪なる政變に伴ひ安達謙藏等の脫黨者あり、その陣容未だ整はざるに第六十議會の解散に次では前藏相井上準之助の暗殺事件あり、更に智襄江木翼は病に呻吟し往年の意氣求むるによしなく、しかも政戰の結果は、勝ひ利あらずして百四十餘名を獲得したるに過ぎざるも反つて黨内に於ては少壯新人擡頭の新現象となり、その結束以前に增して强固にして二大政黨の對立に處し何等微動だに見せず、しかも彼を繞りて輝く諸星また才鋒を隱し肅かに彼の信賴に任じ智謀を深く秘めて彼のために支柱たるを欣ぶに於て、天下の事又何事か成らざらんやである。新時代の要求は民衆の思念政治の表に現はるるにあり、無産政黨の群立するまた偶然でないが現實はまた政友會三百餘名の絶對過半數を以て天下に政權を逸す時代でもある。ただしかしながら政權の移動また必ずしも保し難からざるべきは當然の數である。若槻の智謀と顧問山本の聲望とは今暫らく言はず彼がやがてその政綱に表明せる國民の總意を帝國議會に反映し立憲の大理想を實現せんとする日の決して遠からざるべきを信ずるのである。

前拓務大臣

民政黨大幹事長

松田源治氏

多事多難なるべき民政黨を背負つて起つ大幹事長となつた彼である。最初黨役員改選に直面して新進者より抜擢する小幹事長主義を採用すべきか、但しは中堅幹部より抜カ〳〵と記されたものであつたが遂に總務合議制なるものに纏つて、こゝに大幹事長主義を採用する事となり。衆望を負ふて前閣僚にして常任顧問たる彼が、大幹事長として民政黨の采配を振る事となつただけに名實共に彼の責務は重いのである。

昭和七年四月、犬養首相兇變に倒れて以來政黨政治は、憲政の常道にストップして政黨の萎縮時代を現出して居るのである。從つて絶對過半數を有する政友會も非常時勢力の壓迫のために、徒に多數を擁するのみで政權にありつけずアクビして居る現情でもある。民政黨の彼の總裁若槻も議會政治のために闘つて居るのであるが、これを憲政の常道に引戻すまでには幾多の障害の

あることを覺悟せぬ譯には行かぬであらうと共に、民政黨が天下をとるまでには政界の事情に更に一段も二段もの變化を必要とするであらう。政界四圍の情勢が頗る民政黨にとりかんばしからぬ時、勇敢にも彼が民政黨を背負つて立つ事となつた事は、彼の三十餘年に亘る政黨生活の上に於ける一大異變であるに違ひないのだ。しかし彼はやるだらう、そして苦しくても我慢して此の難局を乘り切り、そしてよく若槻の相談對手として政黨政治の爲めに勇敢に闘ふだらうと一般からも信ぜられて居る。彼は純情の士である。そして剛直清廉、正を踏むで怖るなしとの信念に燃えて居る。人間味タツプリの男である。そして政治家として氣輕で誰れにもすぐ欣慕されるやうな特質のある男である。西園寺公と、これが訪客との關係は、冷徹水の如き老公の前には何人と雖も畏敬言葉數も勢ひ尠くなるのであるが、わが獨青松田に限つて決して左樣な事はない。老公また彼の無遠慮を愛して特別の寵遇を與へて居るとの事は彼の性格から推しても左もあるべきだらう

日大卒業の辯護士から身を起して、それも二十一歳の黄口の書生が文官高等、判檢事登用の國家試驗に一時にパスする頭のよさを示してからは、尋常ならぬ評判を世間にとつたものであるがそれに傲らず彼はいよ〳〵熱心に勉強した、その上どんな人との交際でも極めて虚心坦懐にやつてのけて人に嫌はれると言ふやうな事が毛頭なく、あらゆる方面に優秀な池歩を踏み固めて來た

ものだ。

濱口内閣の時、拓務大臣をやり頗る好成績を示したものである。書生肌で浪人肌で、尊大ぶらず、いかにも簡單にモノの解る男である。明治から昭和に到るまで日本は著しく變轉した時代色を作つて居る國民の生活思想に於て或は感情とに於て、しかしながら彼は刻々と移動してやまない時の流れをよく呑み込むで大衆の政治要求に巧に乘じ得る透明なる頭腦を準備しても居るのだ昭和七年二月、梅花色ます頃愛妻に逝かれたものだが、病革たまるや大分の彼の選擧地から長距離で病妻に對し夫として最後の慰めの言葉をかけ、天下をホロリとさせたが昭和八年のはじめ、熱海にあつて左の一詩をものして逝きし夫人を偲むだことほど彼の人間愛の發露でもあらう。

上窓何影一横斜　看自初更座喚茶
莫是佳人憐寂寞　眉如春月繪梅花

何れにしても彼は選ばれて民政黨の大幹事長となつた。勇氣とそして横湧する活力とを物語る彼の顏貌は、よく彼の有する强靱の才能を發揮して、複雜なる政界に荊棘を開いて政黨政治をまもり。又萬難ふりかゝるともよくこれに堪えて暗黑の間からに一道の光明に導くであらうことは萬人齊しく信ずるところでもある。

華かな武者振り

彼（六十四議會）

作田高太郎氏

去る第六十四帝國議會に於て、齋藤内閣の重大使命の一たる選擧法改正案は、不幸同議會に於て握り潰しの運命に遭遇した事は何としても遺憾千萬の事でもあつた。

さりながら民政黨を代表して彼は極力その通過に懸命の努力をした。從つて重大法案の審議であるだけすべてのものがこれに注意を拂つた事は言ふ迄もない事だ。新聞や通信も決してこの審議の模樣を見逃さず書き立てたものであるだけ彼の名は常に紙上に活躍しも居た。殆むど彼の獨壇上、民政黨には彼より外の鬪士なきかにも見えたのである。彼の存在は去る議會明けの役員選擧から天下に認められて來た。院内の總務か或は部會長か、何れにしもその一つは彼が獲得するだらうとは當時院内外はもとより新聞紙上の下馬評でもあつた。されど人くりの都合上、彼は政務調査副會長の椅子に甘むじなくてはならぬ事となつた事は彼を知る多くの人の遺憾とするところであつたが、待てば甘露の日和とやら、六十四議會は、彼に惠まれの機會を澤山與へる事に於て吝かでなかつた。殊に三月一日の本會議場、彼は選擧法案を提げ極力奮鬪していよ〳〵存在を强固にした事は彼の政治前途に華々しい光明を與へるものでなくてはならぬ。彼は永らく院内の筆頭幹事をやり進行係として數度の議會に臨むで居るだけに典例、規則にも通じ又法制の知識をも十分に貯えても居た、今日あるは偶然でないだけ、彼の如きは將來ある政治家として新進中傑出した存在であらう。

外務參與官

江木の政治的後繼者

澤本與一氏

民政黨の智惠囊であつた江木翼の闘病日記を讀むものは、彼がその尊き生命を絶つまで、常にその思を天下國家の上に走らせ、殊に憲法政治確立に對しては、實に數千言を費し、如何に彼が健在なる憲法政治の發達を祈つて止まなかつたかを知ることであらう、實に彼の死は、人物寥々たる一民政黨の大損失たるのみならず、國家の大損失であつたかは今更言ふまでもないことだ。しかるに彼が政治的の嗣子として此の世に遺したものに澤本與一が居る事を忘れてはならぬ。彼は江木と鄕里を同うする山口の產で、今日當選三回を數へて居るが、江木さんはその憲政會內閣の司法大臣以來決して此の男を左右から放さず民政黨內閣の鐵道大臣となつても彼を秘書官として、恰も父子の如き關係にあつたものだ。さりながら彼は今まで江木さんが光つて居たと言つても、彼は決してその光に蔽はれて居たと言ふのではない。そして裸一貫の男としての價値を問はれても彼は實質以下に見られるやうな男では決してござらぬ。手腕識見氣魄、斷然儕輩を拔いて居るからだ。政友會の巨頭久原房之助がかつて實業界に雄飛して居る時彼の才力を愛して約十年間、秘書役として大切の椅子を與へて居たのを見ても十人並の秀才でなく、斷然彼が光つて居たことも窺知されるのである。江木さんを失つた彼としてその政治的行路に寂しさを感ずることであらう、さりながら彼の腕の見せどころは眞にこれからでもある。何れにしても彼の將來は、興味と想像とを招び起こすに十分でもある。

常任幹事

民政陣營の快男兒

高橋守平氏

民政黨に於ける常任幹事でもある當選三回、去る役員改選の際部長及び總務の有力なる候補者でもあつたが、割振りの都合上、實現を見なかつたことは彼を知る者のすべてが、遺憾とするところでもあつた。しかし春秋に富む彼としては急ぐ必要は毫もないのだ本部に於ける常任幹事として徐に待機の姿勢をとつて居る方がどれだけ彼の將來の大成を期する上に於て有益であるかも知れぬ。昨年、議員から簡拔され萬國議員會議に列席した序に歐米に於ける政治經濟の實情を視察してタツプリ新知識をツメ込むで歸つて來たゞけ民政黨中堅代議士中光つて居る方であらう。從つて頭腦も好く思慮もあり常に絕大の實行力を藏し大衆の政治要求に巧に乘じ得る冴えた頭腦も準備して居る。そして正義の愛好家で、正を踏むで怖るところなしとの信念は彼の胸中に常に燃えさかつて居るところでもある。徑直勇行、彼の如きはやがて政界の一角に明確なる存在を刻するであらう事が一般に信ぜられもして居るだけ最高幹部の信賴の厚き所以でもあらう。正直で無邪氣で、彼の民政黨に於ける聲望は隊ちることなき飛行機であると共に沈むことなき潛水艇でもあらう。

民黨の强き存在

彼の動向と政局と

富田幸次郎

時の内務大臣安達謙藏の提唱せる政憲協調內閣問題から端なくも若槻內閣崩壞の責任をとつて離黨した彼は、安達一派の國民同盟にも走らず、久しく池中の龍と潛み徐に風雲を觀望せるかの感を與へて居たものであつたが、しかしその當時から彼の復黨は時期の問題として一般から信ぜられても居たものだ。その間彼は、友人として時々小泉、俵の民政黨幹部とも會見し飯など喰つて居たもので、議會開會中など、時々例のヌーボーの姿をその幹部室及び議員控へ室などに運んで富田一流のつかまへどころなき漫談に花を咲かしても居たのだ。

彼があの當時とつた行動は、タトエそれ事體が若槻內閣崩壞の導火線となつたとは言へ、餘りにその影響が大きかつたのでその實彼自身一驚を吃したものである。彼としては只政友會幹事長たる久原房之助と民政黨の幹事長たる彼との間に取り交はした誓約書を參考の爲め總理に見せれば好い位の事しか考へて居なかつたと、その後彼が語つて居るところを見ても根が正直の彼はたしかに誰かに擔がれたのではないかと信ぜられる數々が確かにあるやうでもある。さりながら彼はその復黨に對しても安達や中野以上に黨員から反對もされねば恨まれもせず、彼の復黨はスラ〳〵と運び元の巢に納まる事となつた譯だが、しかし彼としてはその當時を顧みて感慨に堪えぬものがある事に違ひないだらう。

さりながら民政黨としては二十餘名も安達一派にサラハレて行つた今日、一騎當千の彼を一枚加へることゝなつた事はたしかに民政黨の强味で、これが反對に彼が國民同盟に走つて居たとすれば安達一派は鬼の首でもとつたやうに喜んだに違ひない、されど民政黨の幹部中には彼の復黨に對し復黨阻止をやらうとした者もあつたやうだが大勢如何ともなしがたく復黨に嫌々ながら贊成した者もあつたそうでもある。さるにしても、野人富田の名をきくも久しい、タトエ彼がさきに親任待遇として、將た、民政黨の常任顧問として、その貫祿を示し納まつて居だとは言へ、明治、大正に於ける政界に著しく驥足を伸ばす事が出來なかつた事の氣の毒さは言ふまでもないとしても、今後に於ける彼の榮世を望むものは、ひとり彼を中央政界に送り出した選擧民のみではないであらう。彼は土佐の產にして逝きし濱口雄幸とは鄕里を同じうして居る。政治家の先哲板垣退助を出した南四國の地に濱口を出し今又彼を有する事は決して偶然ではないが兩者相併むで昭和の政界に雄飛したところは、けたし土佐人の誇りと言つても差支ないのだ。さりながら復黨した彼は今後いよ〳〵憲政運用の爲めに努力すると言つて居る、そしてその傍ら民政黨として國同の安達と手を握らし再びあの一派を古巢へ引戻すか又は政界の謎、宇垣一成政黨入りの解決に自ら當るか、何れにしても彼の復黨は同黨の强味であると同時に彼の仕事も留守中大分たまつた譯でもある。

第三黨の威容

國民同盟首領

安達謙藏氏

——世界の形勢は激變した。政黨政治家は、世の激變に處すべく猛省一番、根本的方法を考へねばならぬ、こゝらで政治家にしてその首を廻らさねば國民の前に清算されてしまふ。——それに滿洲の問題は愈重大性を帶びて來た、國際聯盟は最後の通牒に等しい要求を我國に向つて提示して居る國論は沸騰して來る、財界は不安に、思想は矯激に向ひつゝある、少壯軍人の間には議會政治の無能を憤慨して容易ならぬ氣色を示すものありと傳へられて居る……然るに唯徒に憲政常道論の形式に囚はれて、政權を反對黨に讓つても時局は到底安定はしない、我黨も過去より脫却し政友會も行き掛りをすて、國家の爲めに互に歩み寄ることは出來ないか虛心坦懷、誠意を披瀝して時艱を救ふことは出來ないか——』と約九ケ月前、今日あるを豫見して政民の協力內閣を主張し國難打開の決意に出た當時の內務大臣安達謙藏の心境は全く民政黨の爲めには公黨の面目を明かにし、更生展開する所以なりと信じたからでもあらうか、これが彼安達の常識と經驗から割り出されたるその當時に於ける政界對策でもあり又協力內閣組織に對する見解でもあつたと言ふのだ。さりながら彼の主張する協力內閣論は破れたのである。

そして若槻內閣の總辭職に伴ひ犬養內閣が成立して、彼はその責を負ふて民政黨を脫し多年の同志と袂別したのである。しかしながら彼安達は脫黨後と雖も、時機を見て復黨したい、又彼の周圍の乾分だちも機により時により、安達復黨運動を開始して幹部に迫つたものである。若し安達の復黨が叶はぬ時は安達を總裁に擁して新黨を樹立したいと計劃して居たのであるが遂に安達の復黨を見ず安達とその一黨は勇敢なる新黨樹立の前進となり玆に第三黨たる「國民同盟」の出現を見たのである。聰明を語る廣い額と、鞏固なる意志を裏書するかの如き鼻と口と、そして冷徹そのものゝやうな靜かなる眼、これぞ實に苦闘また力戰を重ねて倦むことなく、當年にあつては加藤總裁を補佐し政權をめがけて離れゆく人心を紊れざるにつなぎ、改選ごとに揮ふ敏腕は直に選擧の神をもつて呼ばれたものだ。言ふまでもなく彼の特質は或は表面の事より裏面の萬策にあれどしかも世間の情理をよくわきまへ、人の面倒も人一倍見て居たのは民政黨の大幹部中誰が何と言つても彼の如きは尠いのだ。何れにしても新黨は今や三十名を突破して居る。情感は理屈を超越してよくこれを支配し得るものだ。民政黨が彼を一枚失つたことは何と言つても一大損失であつたとも言へぬことはない。

齋藤内閣の拓務大臣

永井柳太郎氏

若槻内閣總辭職後の民政黨は、その崩壞の責任をとつた前内務大臣安達謙藏、常務顧問富田幸次郎、總務中野正剛等の脫黨に伴ふ黨内の動搖に依つて俄然ピンチに襲はれたのである。此の民政黨にとつての重大危機に彼は山道幹事長の責任辭職の後を繼けて彼の不自由の身を挺して敢然大幹事長の椅子に就いた事は、彼の幹事長の適不適は別として彼の有するその勇氣と燃ゆるが如き愛黨の精神に誰しも敬服せずには措かなかつたものだ。

言ふまでもなく今日の永井は政治界どの方面に廻しても立派の流行兒で、將來の大臣を裏書きされて居る男でもある。彼の大雄辯は底知れぬ井戸から滾々として迸る泉である、その美辭麗句は恰も音樂を奏するが如く聽者をして恍惚たらしめ滿堂を魅了さすと共に又一面その一言一句烈々とし舌端火を吐くに似たりその肺腑を貫くの辯は必ずや何ものかを民衆の頭に印刻せずには置かぬだ。

聰明を語る廣い額と鞏固なる意志を裏書する鼻と口と、演壇に起つたばかりで大向の喝采を浴びるその親しみある顏貌とは以て、近世政治家として民衆に欽慕せらるゝに少しも缺けたるところなき彼の面目でもある。何れの政黨と言はず、黨内にはいろ〳〵の流れに棹さす群衆は乏しくないものだ。佞辯以て自己一身の榮達を策し、僞善以て最高幹部に取り入る事をのみ念とする所謂る小悧口の政士尠からざる中にあつて彼は決して大幹部に一瞥を送らず自己宣傳に浮身をやつさず、經世濟民その志を天下國家に持つ優秀にして善良なる政治家でもある。

政黨人として彼が政治を以て彼の生命の唯一最大の對象として居るに不思議はないが、しかし彼は政略家ではない極めて坦々たる憲政の常道を歩まんとして清虛高簡なる風懷を以て政治をやるところに彼が生きて居る、されば新時代の流れをよく呑み込んで大衆の政治要求に巧に乘じ得る頭腦を準備しても居る。新時代の政治精神は民衆の歩みに一歩遲れてもいけないのだ。

濱口、若槻と二代續いた民政黨の内閣で犬養首相白晝の兇變によつて、犬養内閣總辭職となり、第一流人物を網羅せる擧國一致内閣に於て齋藤實子の懇請によつて若槻總裁は彼れ永井を推薦し入閣せしむる事となつた事は、當然の順格で、彼の入閣によつて齋藤内閣に一脈の新味を加へたものなりとして天下に好評されたものである。さりながら未曾有の國難に直面して齋藤内閣の責務は重いのである。されど彼の有する强靱の才能と清朗なる心境とを以て萬難ふりかゝるともよくこれに堪え國難打開に猛進し、一道の光明を導くであらう事は萬人の等しく信ずるところでもある。石川縣は、先づ彼のこの榮冠の爲め祝杯を擧げて可なりであらう。

總理大臣級男

朝鮮總督

宇垣一成氏

朝鮮總督宇垣一成の存在は、たしかに昭和政界の謎でもあらう。殊に近來目立つのは、未曾有の受難期にある民政黨中の大小政治家が、彼を引つ張り込むで、次期總裁の椅子に据え、以てその陣容を一新し天下大政黨の陣容を整へんとする運動は、機に觸れ時にふれ濃厚の度を加へて行くばかりである。宇垣は動くか否か、與へられた問題である。何と言つても役は、軍人政治家中古今に珍しい存在として天下も認めて居れば、彼又或は自認して居るかも知れないほど新時代に於ける軍人政治家でもある。從て昭和の時代でも軍人政治家は種切れにならない事も敢て怪しむに足らない。彼は元來岡山縣の出身で、軍人となつて以來軍閥に據らず、緣故もなく、彼のハチ切れるが如き實力で今日の地位を贏ち得た男だ。だから軍閥のをかげで鰻上りにトン〳〵行つた男とは一寸趣を異にして居る所以でもあらう。彼は幼にして神童と呼ばれ、士官學校も首席なれば陸軍大學も優秀の成績で押し通した男で未來の大將は既にその頃から芽ざして居たとも言へる。

一寸見ると重厚のやうに見えてあれでなか〳〵俊敏な性格の所有者でもある。

陸軍大臣を三代も四代もつとめあげた事の珍異なる事は言ふまでもないとしても、彼の名陸相たる存在は、今も昔も變りのないほど近代に於ける名陸相にして、彼が單なる武辨でない事だけは確實でもあつた。

若槻内閣倒潰の直後、田中首相は辭を低うして深夜彼の邸を訪ふて留任を懇請したそして彼の同縣人犬養木堂も田中總裁の旨をうけて極力留任に努めたが彼は頑としてうけず極力白川大將を推薦してサツサと官邸を引揚げたその鮮かなる手ぎわと來ては一寸眞似の出來得ない場面でもあつたのだ。

そればかりではない、田中内閣の末期、それは田中内閣の屋臺骨がグラついて居る時でもあつたが、久原遞相は、總理とその一黨の意をうけて入閣を勸めに行つたものだ。宇垣を一枚入れて改造の一新を計らむとしだ事は言ふをまたないとしても、易々彼として田中大將の尻馬に乘るやうな眼先の見えぬ宇垣一成でもなかつたのである。以前軍務局長をやつて居た事もあつたが既にその時から陸軍の隅々にまで睨みを利かしても居た、そして教育總監本部長をやつて居る時には

陸軍部内に於ける宇垣熱は最高潮に達し飛ぶ鳥を落す勢を示しても居た。今日迄に於ける彼れは殆ど軍政方面にその智力と手腕とを發揮して來たものだ。

彼が憲政會内閣の陸相の時、政友會總裁田中義一男が大政黨の總裁にして院外團の徽章を附けて議會に出入する事を遺憾としたのみならず野黨を統べる總帥にして一の議席をも有せず、しかも議政壇上、朝野首領の論戰なきは立憲政治に於ける一大汚辱なりとして加藤總理を說いて（加藤伯急逝により若槻内閣に於て實現）彼の勅選を奏請せしめ以て堂々議政壇上朝野首領を見えしめたなど、彼の識見及び氣魄と輪廓のほどが窺はれるのみならず又一片の政界住話としての價値に富むで居るではないか。ヨク内閣崩壞期になつて談タマ〳〵後繼内閣の問題にもなるとその好適の後繼者として彼はよく政界人の下馬評に上るのも畢竟彼が首相級の人物として天下に重きをなして居るにも因るのであらう。但し彼は政界策士に擔がれるやうな凡物でもない、時代が政黨を無視して内閣なんか組織出來得るものでない事はピンからキリ迄知り拔いて居るのだから仕末が惡るい。然し擔ぐ方から言へば擔ぎ榮えがするかも知れぬ。

彼の民政黨入りの問題は別として、齋藤内閣の後繼者として宇垣擁立の運動も相當勢力を有しても居る、ソレについては軍部方面に於ける一部の反宇垣熱が支障を及ぼすであらうと見る人もあるが彼の軍部方面に於ける潛勢力は政界方面と同樣になか〳〵無視出來得るものでなく彼を支持する者相當多くの數を算するからこれとても油斷は出來ぬほど、彼は四方八方引つ張り凧の形である。將軍連がよくやるやうに彼も斗酒尙ほ辭せずと言つたやうな形である。醉へば豪快の氣を吐いて倦むところを知らず、殊に世間の表裏にも通じ血もあれば涙もありヤボの政治家よりはるかに民衆的である。そして智謀、機略、見識、闘志何一つ缺くるところなき好個の將軍でもある。彼は無慾恬淡、常に志を天下國家に持つ剛直潤達の士である、彼が岩丈なる軀幹には泰山崩るゝも搖るがぬ大度大膽が包藏されても居るのだ。それにしても彼宇垣は民政黨に好く、政友會にも好い。殊に昨今民政黨内に於ける宇垣熱の旺盛なるは驚くばかりで、軍人としては恐ろしい政治的潛勢力を持つ男でもある、さりながら彼の政界入りの噂はイツ實現するのであらうか、彼は奮然朝鮮總督を勇退して政界に乘り出す氣はないのだらうか、そして彼の此の偉大なる潛勢力を行使して彼の人生道程に興味あるエポックを劃する氣はないのであらうか、即ち今や天下の興味は此の點にかゝつて居るのであるが何れにしても珍しい大きな謎を持つ男であると共に彼は決して一介の武辨で終るべき男でない事も確實である。

將來好くなる男

中村三之亟氏

今回の普選第三次戰に於て天晴れ大衆の支持を得て普選議會の議席を贏ち得た彼でもある。さりながら彼が今日迄に於て中央政界進出を志したのも實に久しいもので、その國家の選良を忘れずして忍苦の日を過ごして來て居りもするのだ。彼は憲政會の苦節十年が報ねられた加藤内閣の商相たりし片岡直溫の信頼を得て、その秘書官となり、その奇智と才腕を認められたものである。彼は普選第一次戰に武運拙く一敗を喫したが毫も失望の色を見せずして闘志衰えず遂に今日の成果を見た譯である。明治から昭和に到るまで、日本は著しく變轉した時代色を作つても居る。そして新時代の政治精神は、民衆の歩みに一歩を遅れてもいけないのだ。謂むや政界の裏も表も知りつくして居る彼の今後の中央政界に於ける活躍は一般に刮目されもして居るのだ。早稲田大學時代では雄辯會の牛耳をとつて居ただけなか〳〵の雄辯家である。大正十一年歐洲漫遊の旅は恰も英國の總選擧に當り智見を擴めるに十分であつたのだ。彼は正直で眞面目で常に定石を行く男だ。新時代の政治家とし、彼はまさしく民政黨の新代議士中、傑出せる存在である事は萬人齊しく認めて居るところでもある。彼は財政經濟問題を得意として居る。

闘志があつて思慮深し

清水德太郎氏

安達復黨問題を導火線として民政黨内に分裂を生じ彼の選擧區山形縣などは二人の脱黨者があつて國同に走つたものである。さりながら彼は飽迄大義名分に終始して何等動搖を見せず、彼等だ脱黨とか離黨とかと騒ぎ廻つて居る間に、彼は萬國議員會議に、民政黨を代表して列席し、歸途歐米各國に於ける政治、經濟並に選擧狀勢を視察して智見を擴め、悠々歸京し半年も經ざる中に國同をして起つ能はざるに至らしめ、次の選擧には歸らずして當選し得ると稱せらる。誰が何と言ふても彼れは民政黨に於ける不思議の存在で黨勢には黨人はえ抜き以上に精通し選擧係には眺向に出來て居る。東大法科大學政治科卒業後鐵道院に入り同參事から地方官に轉じ山形縣警察部長、同内務部長和歌山縣知事に歴任したもので政治家として優秀の存在である。其上闘志があつて、頭腦も好く、思慮深く、精力絶倫、度胸もあり、押しも強く辯舌も聲量があり熱があつて感動を與へる。而して少しも焦らず將來の大成を期して居るのみならず宗教を信仰し國家國民の利益の增進に努める事を忘れぬ其政治的前途の輝々たるものあるは言ふまでもない、當選三回、黨の中堅人物である。

彼と農政問題

農林參與官

松村謙三氏

を認められても居た。民政黨の少壯代議士中では農政問題に對しては第一人者で、又はそれに近いものである。當選三回、富山縣の選出で、その將來を一般から期待されても居る。早稲田大學政治經濟科卒業後、報知新聞記者をやつたこともあり、又は地方議會では富山縣會議員もやつて居た。若槻總裁を始め町田忠治、永井柳太郎等の信頼をうけて居る。頭腦も好く、新時代に對しても十分なる理解を有して居る。溫厚の政治家としての一面極めて嚴肅なる謹直性の片鱗を見出す事が出來るやうに彼は、權勢に阿附せず、自ら正と信じたことに對しては、所信を斷行するに於て決して人後に落ちない彼でもある。だから政治家の通弊として世上に醜を流すやうなことは彼に於て藥にしたくもないほどの彼の信望こそ現政界に於ける一服の清涼劑でもある。今や農林省には重用の問題が山積して居る、極度に行詰まれる農村經濟の救濟問題等それである。その救濟を要望する悲痛の叫びは山に野に川に滿ちて居ると共に急速を要する農村經濟改善も現內閣の一大使命である。されど彼の有する强靱なる才能は萬難を打開して暗黑の間から一道の光明に導くであらう事は萬人等しく信ずるところでもある。

參與官就任前までは民政黨の常任幹事をやつて黨務に勵精して居たものでもあつた。濱口、若槻の兩內閣では農林大臣秘書官をやり町田農相の女房役としてその手腕を明確にし、既に最高幹部の信頼と期待とを贏ち得ても居る。

機智と才腕

輝く彼の政治將來

岡田喜久治氏

東大法科大學政治學科卒業。文官高等試驗に合格後、宮城縣屬、同縣志田郡長、北海道廳、石川縣、警視廳各理事官、三重、宮崎、岐阜各縣書記官に歷任しその間警視廳保安、工場、外事特別高等各課長、三重縣警察部長、宮崎縣警察部長、內務部長に補せられ、又京都市助役となつた事もある。役人して居て毫も役人臭きところのなき彼でもあつたゞけに役人生活に見切りをつけ中央政界の躍進となつた譯だが未だ政黨生活幾ばくも經ない今日、既に政黨の要諦を心得て居る彼でもある。彼は將來大きくなる男である、そして官僚出には珍らしい叡智とそして闘志と辯舌の武器まで保持して居る、そして彼が如き春秋に富み彼が如く敏達でしかも民衆的であるものゝ前鈴は常に多忙である、謂はむや彼が如き清新の理想を持ち新時代の空氣にも觸れてテンポの早い時の流れを注視して居る彼の政治將來が刮目されて居る所以でもあらう。此の意味に於て栃木の第一區は好い代議士を衆議院に送つても居るのだ。民政黨の少壯代議士中、種々の意味に於てその政治前途を嘱目されて居る純眞の政治家を數ふることに於て苦しまないが、彼が如きもその數に洩れないだけその存在

性寛厚にして

正しさ眞面目さ

小山邦太郎氏

民政黨に於ける中堅組である。そしてその政治的前途を期待されもして居るのである。やがて大幹部の列に自ら進み入ることも確實である。

性寛厚にして如何なる場合と雖も紳士の美德を失わず然諾を重むずる泰山の義の持主でもある從つて謹直で親切で、鄉關に淳風美俗の慣らひを敷いた先達でもある。

理想家であると共に一面感情家でもある。胸中に燃えるが如き熱情を漲らせながら農村問題等の解決に奮闘する彼でもあつたのである。さりながら如何なる時に於ても國家の選良たるを忘れず既に若槻總裁始め黨の最高幹郎に信頼されて居るのみならず、黨内外に頗る評判の好い男である彼は決して策略家ではない、極めて憲政の常道を歩まんとする人である。そして頭も好く、演說もウマク、思慮周密で、識見もあり抱負もある。そして常に新智識の吸引を忘らず新時代に對する理解もある。此の意味に於て長野縣第二區は好い代議士を有して居る譯で衆議院は彼を永久に失わない事であらう。

頭も好く

正しさ眞面目さ

豐田豐吉氏

昭和七年の總選擧で天晴れ民衆の支持を得て衆議院の議席を贏ち得た彼は、政治生活幾程も經たないに拘らず黨内からその將來を囑望されても居る、早大卒業後、企業會社に關係し中華企業會社の重役をやつて居た事もある。頭腦明晰、性は寛厚如何なる場合も紳士の美德を失はず然諾を重んずる泰山の義の持主である。辯舌もあり特に財政經濟を得意として居る。加ふるに新智識の吸引に努めて居るだけ新時代に對する理解を忘らず、從つてその將來が輝いて居るは言ふまでもない。

彼の溫厚政治家としての一面、極めて謹直なる片鱗を見出す事が出來るやうに彼は正直で眞面目で、世上に醜を流すやうな事は藥にしたくもない程の彼の信望こそ現政界に於ける一服の清涼劑でもある、當選一回の場數しか踏むで居ないので彼の政治家としての今後は未知數であるがしかしその前途に興味は湧くのである。彼は二三年前、後藤新平伯等と共に倫理化運動に全國を遊說したものである。

前内閣書記官長

川崎卓吉氏

法制局長官に廻つた彼としては、定めし張り切つた腕の扱ひやうに困つた事であつたかも知れぬが、しかし一陽來復、二年後の若槻内閣の出現に對し當時噂された書記官長とは一體お芽出度ウを言つて好いのか何うか一寸祝辭の使用にマゴつく人が尠からずあつたと言ふ事はさもあらん事でもある。さりながら若槻内閣の成立と伴に、彼も入閣するであらう事が各方面に信じられて居たゞけ彼又大臣の有力候補者であつた事は爭はれないのだ。然し川崎に限つて急ぐ必要は毫もないのだ、急ぐな急いではいけない、無理をしてはいけない、それよりは鴛籠町自宅一室で徐かに大臣學でも勉強せよ、テンポの早い時の流れは必ずや彼等の時代を現出するであらう。

彼が法制局長官をやつて居る時、倫敦會議の主席全權となつた若槻禮次郎は彼の人物に惚れ込むで、濱口首相に頼み主席政務顧問として倫敦會議に連れて行つた事は誰でも知つて居る事だ。さすがに若槻に見込まれるやうな男だ、その智謀の深大を象徴するかのやうな彼の大きい頭腦、濱口内閣の時、既に警視總監、或は又書記官長の榮職に就くであらう事が一般に信ぜられて居たものであつたが、それが何うした風の吹き廻しか親任待遇ではあるが、それが何うした風の吹き廻しか親任待遇ではあるが

滿身の覇氣をこゝに集むるかと見ゆる顔貌こそ彼の政治的將來の如何に輝かしきものあるであらうかを物語るもので、殊に彼のあゝところ和風漲り、永い間の官僚生活をさらりと捨てゝ五十年の野人をこゝに見るかの感あらしむる所以のもの、彼の努むるところまた尋常一樣でないからでもあらう。

彼は貴族院に議席を有するのであるが、民政黨の爲めに捧ぐるに彼の如き敦厚の人物はあまり多くを求めるに困難である。福島縣知事を經て臺灣の内務、警務、殖産の各局長より加藤伯に見込まれて名古屋市長となるや加藤伯を首班とする護憲内閣成ると共に、警保局長に拔擢された彼である、憲政會内閣の時、内務次官に累進し若槻内閣倒壞と共に浪人生活に入り普選第一回戰には監視委員として各所に轉戰して選擧の公明を提唱して田中内閣の選擧干渉に備へ戰線を有利に展開せしめるなど政友會をしてその膽を寒からしめたこともあつたのだ。

勅選の議員ではあるが世故と人情の表裏は野暮の代議士よりは、はるかに民衆政治家の型には まり官僚畑に育つたものとしては彼の如く垢拔けした男は一寸珍らしい、しかも絶倫の精力と明晰の頭腦の持ち主、度胸も据つて居れば抱擁力もウンと備へ、新時代に理解を持ち新智識の吸引を忘らない、殊に彼の圓滿なる常識に加ふるに周密なる智慮とを賦與せられて居る事は天の彼に惠む偉大なるものがあると言はなくてはならぬ。

廣島に生れて廣島臭のない男である。彼れが代議士の存在を持續し今日に及んで居るとすればとくに閣僚一方の椅子を贏得る事は容易であつたかも知れぬ。何にしても彼は大臣の器である。

手腕と力量

新總務中の最年少者

櫻井兵五郎氏

をあつめて居るのを以て見ても如何に民政黨總務陣は今回ほど充實した陣容を見せて居るのは近來稀に見る光景でもある。前閣僚及び若しくは政權を獲た場合の大臣候補者その他何れも錚々たる大幹部ではないか、彼は役員改選前まで幹事長の候補者であつたのであるが、民政黨に於ける總務合議制の建て前から大幹事長主義を採用する事となつたので、若手としての彼は暫らく總務となつて相變らず黨の支柱としてその貫祿を示す事となつたのである。彼はその前まで顧問中の最年少者であつたのだが今度も、彼の年少にして前閣僚及び彼の先輩政治家を中心とする間に交つて潑溂たる元氣を漲らすだらうと共に又受難時代の民政黨として彼の手腕を發揮さすに誠に以て適任と見られても居る譯だ。彼の少壯にして非常時政黨の總務となる。若槻總裁はじめ黨内外の信頼に對し感謝すべきである。闘志と言ひ機略と言ひ思慮と言ひ何一つ缺けたところなき彼である。そして人間として、極正直で、氣品も低劣でなく、多方面の趣味をも解して居る。政治家としては、既に當選六回を重ねて居るだけに、實戰場を踏む練達の士として議場の驅

引にも長じ居るのみならず、議政壇上の闘士として既に定評がある。

彼は言ふまでもなく辯舌の雄者である。内容豐富、奇警百出、その取材の多方面なることについては萬人等しく驚異の眼を睜はるのである。何となれば彼がとつてもつて立ち向ふところの武器は、外交問題であれ經濟問題であれ、社會問題であれ行くところとして可ならざるはないのである。されば目下民政黨に於ける彼の同僚及び同クラスの間に於て、彼と相對抗するほどの人物は他に多く求める事の出來ないのだ。彼は民衆の暖かき抱擁によつて健全に、そして優秀に太つてゆかうとするものである。從つて大衆の政治要求に對しても彼は巧に乘じ得る冴えた頭腦をも準備しても居るのだ。

彼が商工に政務官をやつて居る時當時の商相櫻内は思ひ切つて彼に仕事をせしめなか〳〵の成績をあげただけに彼の手腕は最早試驗濟みである。殊に彼は文章に長じ議會の報告書、又は總裁の演説草稿は大ていの場合彼の手をくゞらぬ事はないのだ。

要するに彼は政治界何の方面に廻しても立派に通る流行ツ兒で、殊に腕と頭の併行したる實際政治家として黨中彼の右に出る者なしと迄評されても居るのだ。

寡言實行

小氣味好き男

中村不二男氏

民政黨の少壯代議士中には珍しい風格をもつた男である。體量二十餘貫、寡言實行家で、一度此の男と逢つたら何だか力强い印象をうける。國家の選良としてはまだ一度の場數しか踏むで居ないので政治家としては未知數であるがしかし既に總裁並に最高幹部連からその前途を囑目されて居る彼である。さりながら彼にして若干の政治的慾望とそれを達成せんとのネバリと押しとが彼の心奥に湧くなれば、彼が現實の政界に華やかなる活躍の舞臺をかち得ることは、まことに彼として易々たることであらう事も信ぜられもして居るのだ、謂はむや彼が如き大衆の政治要求に巧に乘じ居る頭腦をもつ彼に於ておやだ。悠揚迫らざる彼の度量、滿身の覇氣をこゝにあつむるかと見られる彼の顏貌こそ彼の輝やかしい前途が約束されて居るやうな氣がするのである。頭腦も好く熱辯家で正を踏むで怖るるところなしとの信念に燃ゆる彼の如きはやがて政界の一角に明確なる存在を刻するであらう事も信ぜられでも居るのだ。

頭も好い

正しさ眞面目さ

眞鍋勝氏

現實の政界は珍しい立派の政治家である。彼の人格的なる、未だ一度としてその政節のけがれたるを聽かぬ。東京帝大文學部英文科及び京都帝大法學部卒業後辯護士の業務に從事して居る德島第二區から出馬して當選二回を算し黨中切つての新智識でもある。

權勢に附せず正を踏むで怖るるところなしとは常に彼の心奥に湧いて居るところのものである。しかも圓滿にして溫厚、それであつて烈々たる氣魄を有し、所信を斷行することに於て決して人後に落ちない彼である。さりながら彼に若干の政治的慾望とそれを達成しやうとするネバリと押しとが若し彼の心の奥に湧いて居るならば現實の政界に今一歩の活躍の舞臺を求めることに於てまことに易々たるものでなくてはならぬ。

謂むや彼が如く清新の理想を持ち大衆の政治要求に巧に乘し得る透明なる頭腦を準備して居る彼に於ておやだ。

彼と蠶絲問題

鷲澤與四二氏

機智と才腕

誰が何と言つても、信州に於ける鷲澤與四二の名を逸する譯には行かぬ。彼は前回に於ける濱口內閣時の總選擧に於てホンノわづかの差で惜敗して中央政界躍進の期遲らしたが、それでも普選第三回の昭和七年の總選擧には天晴れ大衆の支持をうけて衆議院の議席を贏ち得たものである。慶應大學卒業後、しばらく時事新報北京特派員として日支親善の爲め努力し北京英字新聞社長をやつて居た俊英でもあつた。

政治はフエアプレーでなくてはならぬとは彼の提唱するところであるだけに、彼はスポーツに對しては非常な愛好家で現に慶應大學から推薦されたリーグの評議員でもある。やがて大幹部の列に自ら進み入るであらうと期待されて居るだけに、彼の明快なる頭腦はよく日支問題であれ農村問題であれ經濟問題であれ、社會問題であれ行くところとして可ならざるはなく殊に彼が蠶絲問題で滿身の努力を蠶絲界の味方となり同業者救濟に突進して居るさまは勇ましいものでもある圓滿妥協の才に富み親切でしかも金こそないが誠心誠意よく人の世話もするしまた世上に醜を傳へるやうな振る舞は藥にしたくもない程の彼の信望こそ彼が黨內外に頗る評判の好い所以でもあらう。

黨務副部長

議會における彼れ

矢野庄太郎氏

まだ當選二回しか占めて居ないに拘らず、既に若槻總裁始め最高幹部に信賴され、黨の常任幹事から黨務副部長と鰻上りの進出振り、やゝ同僚に羨望されて居るやうな彼である。黨內に於ける少壯代議士中の經濟通で博士田中貢等と共に將來を囑目されても居る。從つて第六十四議會では、彼が平素抱懷して居る經濟政策をして齋藤內閣の政策に內容となり形となり大に貢獻して、中小商工業、及び農漁山村の救に大童となつて奮鬪努力したものであつた。從つて彼の奮鬪振りは漫畫にゴシップに東京の新聞に掲載されたものでもあつた。さりながら彼に今少し政治的慾望を持つならば、現代の政界に今一歩の活躍の舞臺を求める事は彼にとつては誠に容易なるものとされて居る。彼は人間としては正直で眞面目で、そして思慮周密、議會における委員會などで悠々として痛烈な議論を進める時、その取材の多方面なる何人も一驚を吃するところでもある。しかも相當の情義をわきまへた彼の政治的將來は端睨を許さぬものあることは一人彼を知るものゝ言ふところのみではないのである。けだし彼は今や實際經濟家として黨の內外に於て重きを爲すと共に斯う言ふのが將來政治家として大を爲すことであらう。香川縣の選擧區は好い代議士を中央政界に送つて居るのだ。

最年少議員

原さんの秘藏ッ兒

中井川浩氏

前鐵道大臣原脩次郎の寵兒でもある。昨年の縣議戰では忽ち縣會議員となり、又今回の總選擧では茨城第二區から名乘りを揚げてスラ〳〵と普選議會の椅子を贏ち得たもので、即ち順風滿帆。男三十三歳を玆に迎へたので

ある。さりながら彼が、その得意の尖端を走らんとして居る此の時、御大原氏は、黨の選擧委員として選擧區を顧みるの暇なくしてこゝに落選の苦杯を呷せしめられたのだ。無論彼としては、同一選擧區にして恰も熊本の小橋對大麻の如き順位の當落であれば彼とても何條默止し得べき直にその犧牲に甘むずべきは言ふまでもないが何分選擧區が異つて居る爲め此の事のなし興はざりし事は彼にとつていかばかり遺憾至極の事であつたであらう。民政黨に於ける代議士中最年少者であるが、思慮もあり闘志もあり舌もあり、謂はむや清新の理想をもち大衆の政治要求に巧に乘じ得る透明な頭腦をもつても居る。彼に於てをやだ。彼はどちらかと言へば重厚の素質だが、また畏敬されるやうな果敢な性格をも持ち合しても居る。何れにしても彼が如き青年政治家の前途に興味を持つもの豈吾人のみならんやと思ふが如何、しかし乍ら原さんは好い子分を持つて居る

當年の名檢事

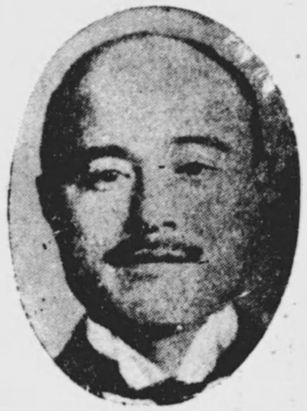
前拓務參與官

武富濟氏

彼は司法出身にして、かつて手古ずり拔いた幸德秋水等の大逆事件の截斷に當つて、一擧にして名檢事の名を走せたのも彼である。今に到るも侃々諤々、正を踏むで恐るところなしの信念に燃ゆる硬骨淸廉の彼である。從つて彼が檢事をやつて居る頃から錬えあげた法理的の頭と彼獨得の雄辯とは彼の政治前進に於ける好個の武器となり民政黨の闘士として既になくてはならぬ强固なる存在を明かにして居る。その議論の內容に到つては取材の豐富なること、奇警百出なることは從つて彼が政府彈劾に使用する痛烈骨をさす論法はさすが昔の檢事時代を彷彿せしめてゐる。

濱口內閣の時拓務省參與官をやつて內外頗る好成績を示した事のある彼である。黨の中堅幹部で、今日中央政界どの方面に廻しても立派に歩るける存在である。

天性の酒家で飲めば一升の酒、即ち醉へば豪快の氣を吐いて倦むところを知らず、彼の剛直の一面にはまた逸話に富む青年時代を有して居た、號を貫峰と稱し俳句をもよくす、その風流は彼の恬淡なる心事をよく表はして居る。彼は將來を期待される政治家である。



周密なる思慮

彼の眞價と名聲

山本厚三氏

北海道に於ける重鎭である。濱口内閣當時の鐵道參與官で、今日まで院内や黨總務をも幾度もやり謂はゞ民政黨に於て、なくてはならぬ男で、内外頗る好評ある政士でもある。

寛厚の人であるが、その一面燃ゆる闘志あり、また旺盛なる愛黨心をも有して居る。

北海道には小池、一柳の諸氏があるか、彼は今や働きざかりの五十代前後、そして前記した如き政歴を有して居るので彼の前途が中央政界に於て期待されて居るのも當然でもあらう。

さすが民政黨の智惠ぶくろ、江木翼のもとで、政務官をつとめて居たゞけ彼また頭腦明晰殊に豫算關係が明かであるだけ參與官で、政務次官の仕事をして居たのも彼であつたほどなか〳〵現實の政界に於ける彼の眞價と名聲は以て北海道に於ける民政黨の隆昌に識するものであつて、從つて彼の責務は重い譯だ。

東京高商卒業の秀才であると言つても十人並の秀才でなかつたやうだ、斷然秀才であつて、彼が政界に進出しても忽ちその存在を明確となし、その手腕、識見、氣魄たしかに儕輩を拔いて居る。しかしながら彼は所謂る政治屋なるものではない。今日まで彼の政節一度としてけがされた事を耳にした事がない。正直で、マジメで政治家の通弊として世上に醜を傳へるやうな振る舞は藥にしたくもないのだ。

剛直、濶達の政治家ではあるが簡單にものゝ解る男で、ともすれば智に優つて情に缺ぐる傾向ある個性に對し彼の如き人物の存在は、民政黨の强味でもある。

財政經濟に通じ、さすがに實戰場を踏むで來て居るだけに、何事に對しても場馴れがして論壇上にも實際の事務の上にも一分の隙を見せた事のない堅材である、されば彼の圓滿なる常識に加ふるに周密なる思慮とを賦與されて居る事は天の彼に惠む偉大なるものがあると言はなくてはならぬ。

今や彼は當選五回、やがて機を得れば雲蒸龍變するであらう事か一般に信ぜられて居るだけ彼の前途には興味のある新局面が準備されて居るのである。彼は現在黨顧問の要職にある。

自由清新

將來伸びる男

中村繼男氏

なる立場に在つて政治に對する事こそ國民居る彼でもある。民政黨に居る時は將來を期待されて居たものである。なか〳〵の快男子で、その上豪傑肌で書生肌で同僚間の氣受けも好かつたものだ。線が太くて抱擁力もありつき合ふて行くに從つてウマミの出て行く彼でもあつた。經濟問題に對しては得意の辯舌でグン〳〵押して行くところはなか〳〵痛快の場面をつくる立役者でもあつた。萬國議員會議に列席した序を以て歐米を視察し新智識をタップリ準備して量に持つて居る男だ。長崎高商の出で、稅務監督局事務官を經て方向轉換の政治行進となり、普選第一回に東京第六區から出馬し、今日當選三回を算して居る政士で、自ら稅務懇話會を組織してこれを主宰し、「成人所得法詳解」等數多の著がある。

國家の選良たる者は、須らく政策本位に依つて進退すべしと言ふので、當時民政黨の幹部たりし彼が、一の聲明書を發表して同黨を離脱し、黨議に拘束されざる自由國民に酬ゆる所以なりと國民同盟の牙城に據り力を注いでの牙城を護る第一線の闘士でもあつた。小橋文相の下に秘書官をやつて居た事もあり、寡默實行その上豪傑肌で書生肌で同僚間の氣受けも好かつたものだ。線が太くて抱擁力もありつき合ふて行くに從つてウマミの出て行く彼でもあつた。經濟問題に對しては得意の辯舌でグン〳〵押して行くところはなか〳〵痛快の場面をつくる立役者でもあつた。萬國議員會議に列席した序を以て歐米を視察し新智識をタップリ準備して量に持つて居る男だ。長崎高商の出で、稅務監督局事務官を經て方向轉換の政治行進となり、普選第一回に東京第六區から出馬し、今日當選三回を算して居る政士で、自ら稅務懇話會を組織してこれを主宰し、「成人所得法詳解」等數多の著がある。

辯護士としても

政治家としても傑出せる

内藤正剛氏

前の府會議長にして關西大學の監事として大阪では尤も緣の深い彼は、中央政界にあつても近來頗るその存在を認められ、今では民政黨になくてはならぬ法理論家としてその將來の大成を期待されもして居る。それのみなした年月はその前身同志會以來のことで實に彼は故武内作である。その間彼は椽の下の力餅を勤めて居たが何等の不沒すべからざるものがある事は誰しも異論のない事でもあらず彼が民政黨大阪支部の爲めに盡瘁した平、廣瀨德藏と共にその創立者の一人である。足も言はず黨の擴大强化に努めた功は沒する。無邪氣で、正直で、勉强家で頭腦も好くある。そして憲政の常道を行く男で陰謀や策略は彼の斷じて排斥するところである、從つて政治家の通弊としての、利權漁りとかの事は藥にしたくもなく、國家の選良たるに恥ぢないだけの決意は常に有して居るだけ大阪第三區は好い代議士を中央政界に送つて居ると言はれても居る。今日隆昌を見せて居る關西大學等に對しても献心的に働いて今日の關西大學をデツチあげたゞけ、教育方面に對してもその功績は見るべきものがあるのである。思慮周密で識見もあり抱負もある常に新知識の吸引を怠らず現時代に對する理解もある。今まで、青年團長を始め借地、借家、小作、金錢、債務、商事の各調停委員や市會議員も勤めそして府會議員となつては府會議長として名があつたものだ。

手腕と力量

拓務政務次官

堤　康次郎氏

六〇

議員會長、總務、それから一足飛びに今度の政務次官となつた堤康次郎の民政黨に於ける存在は、まだ當選四回の塲數しか踏むで居ないに拘らず儕輩を拔いて見る〳〵うちに黨務部長から評る。明治廿二年生れと言へば本年四十四歳の少壯人、それであつて今日迄幾多の事業を經營し彼が現在背負つて居る信用借金のみでも約一千万圓位はあるだらうと言ふ噂だけに、近來稀に見るなか〳〵の傑物である。從つて實業界にあつて無限に伸びる力を持つて政界の事を學ばんとするは聊か惜しいとの評をなすものがあつたがしかし滋賀縣から中央政界に躍進して以來メキ〳〵と堅實なる地歩をかため彼の少壯にして前記のように、今日の地位を贏ち得た事は、孜々として倦まざる彼の努力の賜に外ならぬのである。

一體で政治家肌で、加ふるに膽斗の如きものを賦與せられて居ることは天の彼に惠む偉大なるものがあると言はなければならぬ。そして烈々たる氣魄を藏し所信を斷行する事に於て決して人後に落ちないのである、殊に新時代に對しても十分なる理解を持ち青年の共鳴點を多量に含むでも居る。拓相永井の美辭麗句、恰も音樂を奏するが如く聽者をして恍惚たらしめ滿堂を魅了さして居るが、彼れ堤のそれは一言一句、烈々として舌端火を吐くに似たりその肺腑を貫くの辯は必ずや何ものかを民衆の頭に印刻せずには置かぬ。犬養内閣成立後、野黨となつた民政黨の犬養内閣彈劾演說會を日比谷公會堂に催し若槻總裁井上前藏相現永井拓相等、首腦部が轡を捌へて出馬したものであつたが彼また選ばれて代表演說をやる事となりその財政演說は聽衆を唸らせたものであつた。六分の俠氣四分の熱と言ふが、彼に於て始めてその眞髓を見るのだ、明治から昭和に到るまで日本ほ著しく變轉した時代色を作つて居る。國民の生活、思想に於て、或は感情とに於て、しかしながら、彼は刻々として移動する時の流れを巧にキャッチして大衆の政治要求に乘じ得る用意を忘らない、精悍叡智水も洩らさぬのである。如何なる實か、よく種子を蒔くことなくして收穫し得ようぞ。今や彼は拓務省に政務次官として永井拓相をたすけ平素彼が抱懷せる政策の徹底を期せんとして居る。さりながら親任官四名の殖民地長官を有する拓務省はうるさいところだ。滿蒙問題等今後十分力を注がなくてはならぬところでもある、彼れ堤の腕の見せどころはこれからであらう。事實彼は縱横の萬策と度胸とを以て一度決着點に到達すれば、これを斷々乎として實行に移す勇氣と手腕を保持することである。清朗なる天が下、ひそかに兩腕を撫しつゝあるであらう。彼はまさしく鐵中の鏘々たるもので將來必ずや大臣まで漕ぎつけあ男でもある。

上州の重鎮

彼の風格と德望と

飯塚春太郎氏

實業界にあつても政界に乘り出しても行くところ一として可ならざるなしとの慨あるは、わが飯塚春太郎であらう。言ふ迄もなく彼は上州に於ける民政黨の重鎭である。性寛厚にして義はかたく、然諾を重むずると共に中央政界に於ては、民政黨の領袖でもある。憲政會の逆境時代、粉骨碎心よく黨勢を擴ろげ、又普選運動時代にも彼はよく普選陣營の帷幕に參じ極力、普選獲得の爲め奮鬪したことは普選史に明かなることでもある。鬪志もあれば機略もあり思慮もある。けだし關東に於ける一方の將領である。親分肌の男でなか〳〵抱擁力を有して居る、しかし人間としては正直で眞面目で、その勢力を利用して世上に醜を傳へるやうな振舞は藥にしたくもないのだ。如何なる場合と雖も紳士の態度を失はず黨の內外から信賴されて居る。即ち彼の信望こそ民政黨の隆昌に讖する所以でもあらう。かつて歐洲各國、支那印度及び南洋方面を視察した事も度々ある、そして關稅審議會委員、關稅調査會委員被仰付又實業精勵の廉により綠綬褒章を賜はつた、當選五回、政治家として珍しい風格を備へた人である。

勇氣と手腕

前商工政務次官

松村義一氏

官界にあつても政治界に飛び出しても行くところ一として不可なしとの評あるは、わが松村義一でもある。彼は、江木翼を同鄉の先輩として、官海の手腕優れたる故を以て第一次若槻內閣の時見出され大分縣知事から警保局長に、その後貴族院議員に勅選された幸運兒でもある。普選第一回戰に際しては自ら選擧監視委員として田中內閣の選擧干涉に備へ政及會の選擧本部をして畏怖せしめた事は餘りにも有名である。濱口內閣成るの時、警視總監の有力候補に數へられた事もあつたほど既に彼の力量手腕は折紙がつけてあつた。二十年の官僚生活は、それでも少しも彼の民衆的であり人に交へて敦厚なる性格を蝕むで居ない、そして如何なる場合も紳士の美德を失はず然諾を重むずる泰山の義の持ち主でもある、あゝ見えてなか〳〵よく黨人の要諦をよく呑み込むで居て彼また結論に及ばずして簡單にモノの解る方でもある。

昭和八年四月二十八日印刷
昭和八年五月一日發行

政界風景展望

定價金三十錢

著者　角屋謹一
東京市世田ヶ谷區太子堂町四三二

發行者　天沼周次郎
東京市芝區芝公園十四號地六
電話芝43二九四八番

印刷者　天沼藤太郎
東京市芝區田村町二丁目十四番地
電話銀座57三二七二番

不許
尖風
復製

發行所　東京市芝區田村町二丁目十四番地三
文王社
電話銀座57三二七二番
振替口座東京一三四〇三番

8
3